

赤十字思想を普及するための教材としての資料

令和3年3月

愛媛県青少年赤十字賛助奉仕団

	資料名	内 容	主題	作成時期	頁
1	絵馬に残された赤十字の心	日露戦争に従事した伊予市の兵士たちが、激しい戦いの中、赤十字の旗の下で、敵味方の区別なしに負傷兵を手当てする様子を描いた絵馬を、地元の神社に奉納した。	・人道 ・博愛	平成17	1
2	ロシア兵墓地につながる赤十字の心	日露戦争のとき6,019人のロシア兵士の捕虜を受け入れた松山の人たちは、人道的にあたたかくもてなし、しかも病気などで亡くなった98人の捕虜が眠るロシア兵墓地を、今も大切に弔い、保存している。	・人道 ・博愛	平成17	4
3	目の見えない犬を助けた物語	目の見えない犬ダン君を助けた2人の少女と共に、あたたかく見守り、育てた坂本自治会長さんや潮見小学校の子どもたちの心温まる物語。	・命の大切さ ・動物愛	平成18	7
4	みんなで生きるために 岩村昇博士	宇和島出身の岩村昇博士は、18年間もネパールで結核の治療と予防に専念され、「みんなで生きるために」の信条で、恵まれない人々のために生涯をささげた。	・人道 ・博愛 ・奉仕	平成18	10
5	日本赤十字の父 佐野常民	佐野常民は日本最期の内線である西南戦争で、敵味方の区別なしに負傷兵を助ける組織をつくり、それをもとに日本赤十字社を創設した。そして、生涯、赤十字の発展に尽くされた。	・人道 ・博愛	平成18	14
6	赤十字の創始者アンリ・デュナン	スイス人のアンリー・デュナンは、旅の途中イタリアのソルフェリーノで悲惨な戦いに遭遇した。そこで3日3晩、「人間みな兄弟です」を合い言葉に地元の人たちと共に敵味方の区別なしに負傷兵の手当てをした。そして、その体験を本に書き、国際的な人道組織である赤十字をつくった。	・人道 ・博愛	平成18	17
7	岩をくぐって水を通じた 山之内仰西	江戸時代のはじめころ、久万地方は水不足で米ができず困っていた。山之内仰西は、自分の財産を投げ出し、さまざまな苦難を乗り越え、岩を砕き、トンネルを作り、水路を作った。	・奉仕 ・公共心	平成19	27
8	やっぱり「おばあちゃん」が大好き	認知症のすすむおばあちゃんに対する、小学生である「ぼく」のさまざまな思いと「やっぱりおばあちゃんが大好き」になる心やさしい「ぼく」の話	・家族愛 ・思いやりの心	平成19	31
9	大きな石は俺にもてころ	日振島出身の森岡天涯は、父親の借金を返すため、20歳の時アメリカへ行き、仕事と晩学に励み、40歳の時に帰国、ふるさとの日振島や南予のために生涯をささげた。	・奉仕 ・公共心	平成19	34
10	少女の涙をだれが伝えるのか	命がけの取材中、ミャンマーで倒れた今治市出身の長井健司さんは、恵まれない子どもたちを救うため、全力を尽くすひたむきなやさしさがあふれた。	・国際理解・親善	平成20	37
11	地雷のない世界をめざして	元自衛官の高山良二さんは、その経験を生かし、退職後、カンボジアで地雷処理活動に取り組んでいる。危険なその活動とともに、地域住民の生活向上のため、日本で寄付をつのり、井戸を掘ったり、学校を建てたりしている。	・人道 ・博愛 ・国際理解・親善	平成21	40
12	稲むらの火	平成23年の東日本大震災を契機に、津波防災教育の重要性が高まった。その原点ともいえる教科書教材「稲むらの火」を紹介するとともに、その当事者である浜口悟陵のふるさと和歌山県広川町を訪ね	・命の大切さ ・奉仕	平成24	43
13	第九交響曲につながる博愛の心 松江豊寿	第一次世界大戦のとき、ドイツ人捕虜を収容した徳島県の坂東俘虜収容所長松江豊寿大佐は、俘虜に対して博愛・人道の精神で対処した。	・人道 ・博愛	平成24	46
14	平和への願いをこめた陽光桜	東温市の高岡正明さんは、教え子が戦死したり、松山大空襲の悲惨な様子を見たりして、二度と戦争をしてはならないと考え、そのため陽光桜を開発し、日本だけでなく世界各地に植樹することに生涯をささげた。（平成27年 名優笹野高史主演で映画化された。）	・平和 ・国際理解・親善	平成25	50
15	命のビザを出し続けた杉原千畝	第二次世界大戦のとき、リトアニアの外交官であった杉原千畝は、ナチスドイツに迫害されていたユダヤ人に日本を通過するビザを発行し、6,000人の命を救った。	・命の大切さ ・人道 ・博愛	平成26	54
16	ブータン農業の父 西岡京治	西岡京治さんは、28年間にわたりヒマラヤ山脈の中の小さな王国ブータンの農業を発展させるため尽力し、命をささげた。	・奉仕 ・国際理解・親善	平成27	59
17	平和の心が宿る青い目の人形	アメリカ人のグーリック博士は、日本とアメリカの友好親善を図るため、多くのアメリカ人に呼びかけ、1927年に12,739体の青い目の人形を日本の子どもたちに届けた。	・平和 ・国際理解・親善	平成29	64
18	ヒマラヤに咲く小さな花	松山出身の鍼灸師吉岡大祐さんは、ネパールで感染症や貧しさに苦しむ子どもたちや老人を救うため、無料で治療をするとともに、子どもたちの自立に向けて「ヒマラヤ学校」をつくり、就学支援をしている。	・人道 ・博愛 ・奉仕	令和元	68
19	真情橋(まごころばし)物語	大正13年1月、松山市南斎院の6少年は、通学路の石橋が洪水で崩れ落ち、人々が困っているのを見かねて、早朝にスコップ、じょうれん、くわなどを持ち寄って土のうを積み上げる作業を1週間続け、橋を直した。	・奉仕 ・公共心	令和2	72